

## 病害虫名 いもち病

### 作物名 普通期水稻

#### 1 注意報の内容

- 1) 発生地域 普通期水稻栽培地帯全域
- 2) 発生時期 8月上旬以降
- 3) 発生程度 やや多

#### 2 注意報の根拠

- 1) 7月中旬以降に急激な病勢の進展が見られ、8月2日現在葉いもちの発生面積率は38.0%（平年39.5%）と平年並であるが、発病株率は18.1%（平年13.6%）とやや高い。（7月中旬 発生面積率8.9%、発病株率1.9%）
- 2) 箱施薬を実施していないほ場、葉色の濃いほ場では、ずり込み症状に近い多発ほ場が散見され、北諸県、西諸県地区では発病株率100%のほ場も見られた。
- 3) イネの生育は草丈が高く茎数も多いため、過繁茂でうつ閉しており株間湿度が高く、葉いもちの発生しやすい状況である。
- 4) 栽培面積の約8割を占めるヒノヒカリは、いもち病に対する抵抗性がやや弱い品種で、近年は、ヒノヒカリを侵すいもち病菌レース007の分布密度が高まっている。
- 5) 本県は太平洋高気圧の周辺部で大気的不安定な状態が続いている。

#### 3 防除法

- 1) 葉いもちの見られるほ場では早急に防除を実施する。また穂いもち対策として穂ばらみ期と穂揃期の防除を徹底する。
- 2) 葉いもちが上位葉で多発した場合や、出穂期に降雨が続いて穂いもちの多発が予想される場合は、穂揃期の7～10日後に追加防除を行う。
- 3) 粒剤の本田施用は、効果が安定・持続するので、有効活用を図る。発生状況によっては、粉剤又は液剤の追加散布を考える。
- 4) 雨の続く時は雨間散布を行い適期を失しないようにする。
- 5) 葉色の濃い水田、葉いもちの発生が多い水田では穂肥の施用を避ける。
- 6) 薬剤等は平成12年度病害虫・雑草防除等指導指針を参照する。また、農薬安全使用基準を遵守し、危被害防止に努める。